

鴻巣市学校給食のあゆみ

年代	国・市(町)の出来事	学校給食の様子(各学校記念誌より抜粋)	食器等
昭和5年 (1930年)	・埼玉県より「欠食児童の調査」があった		
昭和6年 (1931年)	・鴻巣町役場が開庁した ・授業の合図が電鈴になった		
昭和12年 頃		・麦弁当、漬物、芋を持ってきた 弁当を持ってこられない児童は、家に帰って食べた	
昭和15年 (1940年)	国より学校給食奨励規定が出され、貧困児童のほか栄養不良児などの給食の充実を図る		
昭和17年 (1942年)		・田間宮小で、食料増産のため、麦、芋、大豆を作った	
昭和19年 (1944年)	国:大都市の児童に対し、米・みそを配布して学校給食が実施された	・東小で「かしの実」を集め、出荷した ・笠原小で「どんぐりの実」を集めて、食料にした	
昭和20年 (1945年)	国:終戦		
昭和21年 (1946年)	国:「学校給食実施の奨励について」の公布 戦後の学校給食の方針が決まった		
昭和22年 (1947年)	国:ララ物資による支援開始 鴻巣・馬室・箕田・笠原・常光に中学校ができた	・馬室小で野菜・小麦・薪などを家庭より持ち寄り、PTAが調理した ・笠原小で、児童の発育を望む地元の人の力で給食の第一歩が始まった 12月24日に「ミルク給食」が開始された	
昭和23年 (1948年)	鴻巣町教育委員会ができた	・東小がミルク給食開始 ・下忍小が自校給食を開始	
昭和24年 (1949年)	国:ユニセフからミルクの寄贈をうけた	・馬室小が給食室改修 副食給食開始 じゃが芋を農協の倉庫に保管 ・箕田小が給食室改修 ・下忍小学校が学校給食を開始	
昭和25年 (1950年)	国:8大都市の児童に対し、米国寄贈の小麦粉で初めて完全給食が実施された		
昭和26年 (1951年)	国:国庫補助による学校給食の継続を希望する運動が全国におこった	・南小が給食室新築 ・川口市で集団赤痢が発生したため、県の命令で笠原小の給食施設計画はストップされた	アルマイト食器 先割れスプーン
昭和27年 (1952年)	国:小学校で、完全給食が実施された	・南小の給食が週2回から週5回になった	
昭和29年 (1954年)	鴻巣町から鴻巣市になった (鴻巣・馬室・田間宮・箕田・笠原・常光合併) 国:学校給食法公布	・南小が給食優良表彰をうけた ・子どもたちの栄養改善が大きな目的だった。	
昭和31年 (1956年)	国:中学校も給食の対象になった	・箕田小で給食婦8人を採用した	
昭和33年 (1958年)	国:牛乳供給開始された		
昭和35年 (1960年)		・下忍小が牛乳給食開始	
昭和36年 (1961年)		・田間宮小が自校給食開始(3月1日) ・吹上小が完全自校給食開始	アルマイト食器 先割れスプーン
昭和37年 (1962年)	鴻巣市に水道が入った	・笠原小で自校給食開始(4月24日)…給食婦3人を採用した 一戸当たり平均966円の地元負担金で給食室が建てられた (当時、白米10kg 850円、教員の初任給8,200円)	
昭和38年 (1963年)	鴻巣市にガスがひかれた	・東小で給食室完成(1日おきの給食から、毎日の給食になった) ・常光小が自校給食開始 ・川里3小学校が川里中より給食配送を受け始める 川里中完全自校給食開始 ・下忍小学校が完全自校給食開始	川里 アルマイト食器 使用
昭和39年 (1964年)	国:東京オリンピック行われた 国:給食の牛乳の本格的供給が始まった	・南小が給食室改修 箕田小給食室改修 ・馬室小が完全自校給食開始 調理員3名を市で雇用了 パン給食が主流。1食125円	
昭和40年 (1965年)		・箕田小が完全自校給食開始 ・小谷小は、吹上小より配送を受け始めた	びん牛乳導入
昭和44年 (1969年)		・下忍小でPTA試食会が行われた	月1・2回ソフトめん 月1回ごはん給食
昭和45年 (1970年)		・田間宮小が給食室改修	
昭和47年 (1972年)		・北小学校が自校給食開始 リフト付きの給食室を新築した	
昭和48年 (1973年)			パン主流 テトラパック型牛乳 アルファー化米一部導入

当時のある小学校
・日の丸弁当

当時のある小学校メニュー
・脱脂粉乳のミルク



昭和51年 (1976年)	国:学校給食に、米飯が正式導入された	・松原小が自校給食開始 ・吹上中が牛乳給食開始 ・鴻巣中、鴻巣北中が副食給食を、「鴻巣給食協同組合センター」に委託	中学校 弁当箱
昭和52年 (1977年)		・田間宮小が調理室新築。2学期は弁当持参 ・松原小が給食開始	
昭和53年 (1978年)		・吹上小が給食室解体。自校給食廃止 吹上小・小谷小が民間調理委託方式に移行	当時のある小学校メニュー ・食パン マーガリン ・牛乳 ・八宝菜
昭和54年 (1979年)		・田間宮小に、市内初めての給食用エレベーターが設置された	
昭和55年 (1980年)		・下忍小が自校給食廃止 ・吹上中が副食給食開始(弁当箱) ・鴻巣西中が副食給食開始(弁当箱)	
昭和56年 (1981年)		・下忍小、大芦小が民間委託調理方式に移行	
昭和57年 (1982年)		・赤一小が自校給食開始 ・鴻巣南中が副食給食開始 ・川里中が自校給食廃止	
昭和58年 (1983年)		・吹上北中学校が副食給食開始(弁当箱)	
昭和60年 (1985年)		・屈巢小、共和小、広田小、川里中が、 「騎西川里給食センター」から配送を うける	ブリック型牛乳導入 川里 ポリプロピレン食器。 先割れスプーン
昭和62年 (1987年)		・赤見台中が副食給食開始 ・赤二小が自校給食開始	
平成2年 (1990年)	鴻巣市中学校給食センターを設置	・鴻巣中、鴻巣北中、鴻巣西中、鴻巣南中、赤見台中の5校分を中学校給食センターで調理開始	鴻巣地域中学校 強化磁器食器
平成4年 (1992年)		・吹上中・吹上北中、民間委託調理方式に移行	吹上地域中学校 ポリカーボネート食器 鴻巣地域小学校一部で アルミ食器使用
平成6年 (1994年)		・鴻巣中央小が自校給食開始	
平成7年 (1995年)		・馬室小が給食室改築	吹上地域小・中学校 ポリカーボネート食器使用 はし導入
平成8年 (1996年)	大阪堺市で0-157事故がおきた	・この食中毒事故をきっかけに、学校給食 の衛生管理基準が大きく見直された	
平成9年 (1997年)	国:「学校給食衛生管理の基準」が定められた		
平成10年 (1998年)	国:学校栄養職員に「食に関する指導」の推進が強化された		
平成11年 (1999年)		・箕田小が給食室を改修	
平成12年 (2000年)		・松原小が給食室改修	吹上地域中学校 強化磁器食器
平成13年 (2001年)		・鴻巣地域、川里地域の学校で地産地消の推進のため地元の米を使い始めた (朝の光とこしひかりのブレンド)	
平成14年 (2002年)		・北小が給食室を改修	
平成15年 (2003年)	・日常の食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培う ・伝統的な食文化についての理解を深めること。 など7項目の目標がかかげられた	・田間宮小が給食室改修	吹上地域小学校 PEN食器導入
平成16年 (2004年)		・吹上地域の学校が地産地消の推進のため地元の米を使い始めた (キヌヒカリ)	
平成17年 (2005年)	国:「食育基本法」が成立・施行 国:栄養教諭制度の実施 鴻巣・吹上・川里が合併(10月)		
平成18年 (2006年)		・鴻巣市小中学校で「彩のかがやき」を使い始めた	
平成21年 (2009年)	国:「学校給食法」の改正	・鴻巣西中、田間宮小に栄養教諭が配置された ・吹上中、吹上北中が、鴻巣中学校給食センターで給食調理開始	
平成22年 (2010年)		・川里中が、鴻巣中学校給食センターで調理開始 8校すべてが、同じ場所より給食配送をうけることになった	
平成23年 (2011年)	国:「第2次食育推進基本計画」の策定 平成23年度～27年度までの計画を作った	・松原小が給食室改修 ・鴻巣中央小・広田小に栄養教諭が配置された	
平成24年 (2012年)		・赤一小が給食室改修	
平成25年 (2013年)	国:和食がユネスコ「世界無形文化遺産」に登録された	・東小が給食室改修 ・屈巢小、共和小、広田小の3校が自校給食開始 ・鴻巣南中に栄養教諭が配置された	
平成26年 (2014年)		・小谷小・下忍小・大芦小の3校が自校給食開始 ・赤見台第一小・下忍小に栄養教諭が配置された	すべての小学校で 先割れスプーンを廃止
平成27年 (2015年)		・吹上小が自校給食開始(全小学校が、自校給食となる)	